

受験番号

## 平成28年度 推薦入学試験問題

# 小論文

### 【注意事項】

1. この冊子には問題用紙と答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、この冊子、問題用紙、答案用紙の受験番号欄（左上）に受験番号を記入してください。
3. 問題用紙には問題が1～3ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせください。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒「HB」「B」）またはシャープペンシル（黒「HB」「B」）を使用してください。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入してください。ただし、解答に関係のないこと書いた場合は無効にすることがあります。
6. 問題用紙の余白と裏面は下書きに使用しても構いません。
7. 問題用紙および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題用紙および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

課題 次の文を読んで設問に答えなさい。

夜道ゆく君と手と手が触れ合ふたび我は清くも醜くもなる

栗木京子『水惑星』

「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で愛を言う君

俵 万智『サラダ記念日』

女性の側が男性にどう反応するか、その例を二つ。栗木京子は、夜道を連れ立って歩いているところでしょう。まだはっきりとした恋人とも言えない淡い恋心。並んで歩いているとふと手が触れることがある。驚いて引っ込めたりもするのでしょうか、そんな「手と手が触れ合ふたび」、自分は「清くも醜くもなる」と詠います。相手の反応によって、自分はどんなふうにも染め分けられてしまうといった告白でしょうか。あなたがやさしければ **A** 女になれるけれど、意地悪をされたり裏切られたら、きっと **B** 女になってしまうだろう、と言っているようです。実生活の具体も、苦しさもまだはるか遠くにある時代の恋の思いでしょう。

俵万智の一首では、相手の男性の性急さをやわらかくたしなめるように受け容れているという歌になっています。男は、自らの優位を示そうとするかのように、「また電話しろよ」とか、「待ってろ」とか、「いつもいつも命令形で」相手にもものを言う。

そうだったよなあ、と私自身を振り返って苦笑いするしかありませんが、若い男は恋人に対して自信がない。その裏返しとして、「命令形で」偉そうにもものを言いたがる。突っ張っているのです。そんなことは同じ年頃の女性ならとうにわかっているわけで、「命令形で」言っているのは、愛の告白なのよねと軽く受け流しつつ、従っているのでしょう。偉そうにしないでよ、とは言わない。<sup>(1)</sup>成熟度がそもそも違うのです。俵万智は、軽い口語文脈で一世を風靡した歌人という位置づけがなされていますが、若いだけでなく、たしかに<sup>(2)</sup>ものがよく見えていた女性であったと、歌を読みつつ思うことが多くあります。

人はみな馴れぬ齢を生きているユリカモメ飛ぶまるき曇天

永田 紅『日輪』

たしか作者が二〇歳の時に作った歌だと思えます。二〇歳という歳も六〇歳という歳も、その数にかかわらず「人はみな」幾つになっても「馴れぬ齢を生きている」のだと言います。

二〇歳の若い女性にしてこの認識にはちょっと驚きますが、言われてみればまことにその通り、<sup>(3)</sup>みんな自分の年齢と折り合いをつけようとしながら居心地悪く生きているのか

もしれない。歳をとるとある程度そんな居心地の悪さはごまかして生きていくのでしょうが、一〇代から二〇代へと踏み渡る不安のなかで、自分の年齢に馴染めないといい、否応なく切実に感じられたに違いありません。

この一首では、上句のそんな認識を、下句で少しも補強しようとしていないところに注意しておきたいと思います。どうしても下句で感想を言ったり、説明や補足を入れたりしたくなるものですが、一見上句とはまったく関係のないユリカモメに飛んでしまっている。ある意味この無責任さが、一首の膨らみと奥行きを与えているのです。下句は叙景ととっておいていいのですが、<sup>(4)</sup>景を上句に合うように切り取らないということをいつも考えておきたいものです。

青春といえれば反射的に「明るく、輝かしく、眩しい」ものという定番のイメージが浮かんでしまいがちですが、実際のおが身の青春時代を思い出してみれば、懐かしさのベールは被っているものの、決してそんなに明るく、輝いていたとは思えない。懐かしくはあっても、当時は、私などはむしろ、暗く絶望的<sup>デスベレイト</sup>で、寄る辺のない不安と、将来への頼めのなさに打ちのめされていた、あるいは焦っていたという思いの方が強かった。

— 永田和宏著 「人生の節目で読んでほしい短歌」

より引用

設問 1. 空欄 、 に入る適切な語句を、それぞれ 2 字で答えなさい。

設問 2. 下線部(1)について、著者は男性と女性の成熟度に関して、どのように考えているのか。100 字以内で述べなさい。

設問 3. 下線部(2)について、「ものがよく見えていた」とはどのような意味か、自分の経験も踏まえて 200 字以内で述べなさい。

設問 4. 下線部(3)について、あなた自身が「自分の年齢と折り合いをつけようとしながら居心地悪く生きてきた」具体的な事例を挙げて、それに対してどのように考え、どのように解決してきたかを 250 字以内で述べなさい。

設問 5. 下線部(4)について、「景を上句に合うように切り取らない」とは具体的にどのような下句にしてはいけないといっているのか。著者の考えを 150 字以内で述べなさい。